

## 島根の水辺の生きもの：宍道湖と中海

宍道湖と中海は島根と鳥取の県境近郊にある 2 つの大きな湖である。9,200 ヘクタールにわたる中海は日本で 5 番目に大きな湖で、8,000 ヘクタールの宍道湖は 7 番目に大きい。2 つの湖と、これらとつながる斐伊川や大橋川などの主要な川周辺の水場は、日本でも屈指の渡り鳥の聖地だ。毎年冬になると 5 万羽以上の鳥たちがここを訪れ、宍道湖のみでも 240 種類を超える鳥が記録されている。この地域は湿地の保存に関する国際条約であるラムサール条約で 2005 年に保護地区に指定された。

渡り鳥の一部は島根の県鳥であるハクチョウだ。オオハクチョウとコハクチョウの両方が日本での越冬地としては最西端に位置するこの湖で冬を過ごす。2 つの湖で見られる鴨類で最も多いのがスズガモだ。スズガモはシジミやゴカイを求めて宍道湖に潜る様子が見られる中程度の大きさの鴨だ。類似のキンクロハジロもよく沿岸に群れている。キンクロハジロのオスは背中黒味が強く、後頭の羽毛が伸びていることからスズガモのオスと見分けがつく。

宍道湖に流れ込む斐伊川の砂州には、特にガチョウが多くみられる。ヒシクイとマガンもここで越冬する。マガンは過剰な狩りにより絶滅の危機にあり、1971 年に天然記念物に指定された。